

A J - パーフェクトコート

施工対象： フローリング・Pタイル等床材
 使用材料一般名称： 一液常温硬化型ハードコーティング剤
 使用材料： A J - パーフェクトコート
 メーカー： 株式会社 ビアンコジャパン

25℃ 湿度50%

工程	使用材料	調合重量比(%)	塗布量(kg/m ²)	塗り重ね乾燥時間(25℃)	作業方法	
1	素地調整	<ul style="list-style-type: none"> ・ 素地に傷や変色がある場合には予め補修しておく。 ・ 汚れを洗浄によって丁寧に落としておく。 ・ ワックスは剥離剤等を利用して下地を傷めないように丁寧に落とす。 ・ 下地に水分が存在すると不具合の原因になるので、水分を十分に乾燥させる。(大量の水を使用した場合には、中1日以上あけて乾燥させる)。 ・ シンナーなどの溶剤を用いて洗浄した場合、溶剤が完全に揮発するまで乾燥させる。 ・ 施工直前には、ホコリを掃除機やダストモップ等で丁寧に取り除く。 				
2	塗布 (フックモップ等)	AJ-パーフェクトコート 主剤	100	0.02kg/m ²	3~4時間	フックモップ等 メラミンスポンジ (小面積の場合)
		希釈用アルコール (ブタノール推奨)	~30			
	塗布 (吹き付け)	AJ-パーフェクトコート 主剤主剤	100	0.02kg/m ²	-	低圧スプレーガン
		希釈用アルコール (ブタノール推奨)	30~100			

【留意点】

- * 乾燥時間 (25℃、湿度50%) ※低気温下での施工の場合には下記以上の時間がかかる。
 - ・ 触指乾燥 30分
 - ・ 軽歩行可能 3~4時間
 - ・ 完全硬化 3日間
- * ツヤ無しは、缶のまま良く振った後ブタノールと混ぜる。
- * 完全硬化前に水分が長時間付着した状態にあると硬化不良がおこる場合がある。
- * 完全硬化するまでは水がかからないように留意する。
- * 屋外での塗装の場合には、降雨時ならびに降雨が懸念される場合は避ける。
- * ガラスなどの表面がフラットな下地では、塗装後に干渉縞が生じる場合がある。

株式会社 ワンオンワン
 Tel 03-6268-8655 Fax 03-6268-8656

【施工上の留意事項】

〔施工前の確認〕

- 施工前に仕上がりや密着性について、メーカーサンプルなどを利用してテスト施工を行うか、目立たない箇所に塗布して確認すること。
(フッ素加工仕上げなど、「撥水性の高い素材」に対しては塗剤が素材に密着しません。表面処理なし、プライマーの塗布等が必要な場合がある)。
- 一般的な塗料と同様に、気温が低いと硬化時間が延びる。 気温・湿度等を確認すること。
(気温5℃以下、湿度70%以上では施工しない)。

〔下地調整・清掃での留意点〕

- 塗布前に下地の傷や劣化部位は予め補修を行う。
- 塗布面に油脂分が残らないようにアルコール等を利用して脱脂する。
- 既存のワックスは剥離剤等を用いて、素材を傷めないように、出来る限り除去もしくは脱脂をする。
- 下地洗浄時に大量の水を利用した場合、水分が残っていると硬化不良の原因となるので、中一日以上乾燥させるか、送風機等を利用して完全に乾燥させる。
- 洗浄に溶剤等を利用した場合には、溶剤を完全に乾燥させる。
- ホコリは、掃除機などを利用して丁寧に取り除く。特に塗布面だけでなく、室内のホコリが溜まりやすい箇所(窓枠、レール、巾木の上など)も、上方から順にホコリが残らないように清掃する。
- 塗剤が付着してはいけない箇所は、塗剤が染み込んだりしないように、隙間無く丁寧にテープ養生等を行う。

〔作業時の服装〕

- 髪の毛や体毛等が落ちたりしないように帽子・頭巾をし、長袖・長ズボン(裾が締まるもの・ホコリや毛クズが発生しにくい作業着等)を着用する。
- 作業中は汗が垂れないように汗止めをする。

〔作業での留意点〕

- 工期は余裕を見て組み、荷物の搬入等で無理な施工が生じないように留意する。
- 部屋内の家具類は出来る限り移動し、床面を一気に塗布できる環境を整える。
- 継ぎ塗りを必要とする場合には、フローリングの目地で縁を切るようにする(図1)。
- 厚塗りは割れやムラの原因になるので、必ず、所要量を守り、限りなく薄く塗り延ばす。
- 壁際では塗剤が溜まり厚塗りになりやすいので、メラミンスポンジを利用して薄く塗布する(図2)。

図1 部分的に塗布する場合

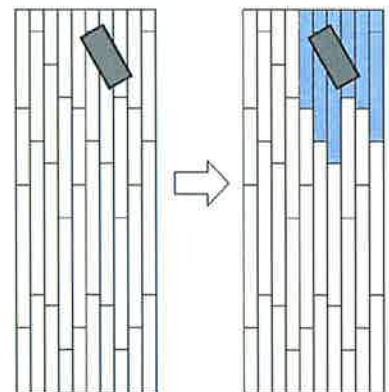


図2 壁際の塗布

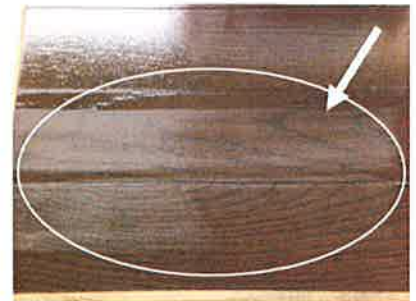


- フックモップ（図3）等で塗る場合、十分に塗剤を含浸させた上で、塗剤が垂れないように十分に液を切り、限りなく薄く塗布する。



- 一度塗布した箇所を乾燥する前に再塗布すると、塗剤を引っ張り、白っぽくかすれた仕上がりになるので（図4）、二度塗りをする際には十分に乾燥してから行う。また、施工中、同一箇所を繰り返すすると、かすれる原因となるので注意すること。

図4 かすれた例



- 低圧スプレーガンを利用する場合には、出来る限り最低限の希釈で調整する。希釈しすぎると実現硬度が下がる場合がある。
- 塗剤がミスト状に飛散しないように注意して機材の選択・調整を行うこと。
- 作業中はミストを吸い込まないようにマスク等の防護具を装着すること。

〔塗布後の養生〕

- 塗布後3～4時間程度で軽歩行が可能になる。それまでは塗布面を人が歩かないように注意すること。ただし、気温が低い場合には硬化時間が延びるので注意する。
- 塗布後は、完全硬化するまで水がかからないようにすること。完全硬化前の水分の付着は硬化不良の原因となり、白いフクレが生じる。
- 硬化不良した場合には、その部分をサンドペーパー等で除去し、薄くタッチアップする。

【施工後のメンテナンス】

- 完全硬化後の通常の汚れは、水拭きや中性洗剤によって洗浄する。
- 靴底などによる樹脂汚れやマジックなどの汚れは、弊社「拭き取り用洗浄剤（B J 2000）」もしくはアルコール系洗剤を塗布し、白パッド等で軽くこすり洗いする。